# 追悼文　名誉会員　故 榎本眞 博士

日本毒性病理学会の名誉会員、榎本眞先生は令和 6 年 3 月 30 日にご逝去（享年 95 歳）されました。本年 1 月 23 日に開催された日本毒性病理学会学術年会での情報交換会でご挨拶されたことが思い出されます。永眠後の献体を希望され、さらに周知しないようにとご家族に指示していた事は、いかにも榎本先生らしい旅立たれ方だったと存じます。

榎本先生は東京大学医学部医学科大学院博士課程をご卒業後、同大学医学部病理学教室助手、同大学医科学研究所助教授、聖マリアンナ医科大学病理学教授を歴任された後、食品農医薬品安全性評価センターおよび日本バイオアッセイ研究センターの病理部長として毒性病理分野でのお仕事を開始されました。お仕事と並行して、西山保一先生・伊東信行先生・藤原公策先生・蟹沢成好先生・板倉智敏先生・石川榮世先生・林 裕造先生・小西陽一先生らのパイオニアの先生方と 1985 年に毒性病理研究会設立、1988 年の日本毒性病理学会の設立にも貢献されました。ご自身の研究としてはマイコトキシンによる発癌性に関する数々の業績があり、「ソフトサイエンス社：実験動物の病理組織」・「カラーアトラス毒性病理学」・「図解毒性病理学（中国語）」・「化学物質の功罪」・「昭和維新人のつぶやき」などの成書を執筆されています。更に人体病理医としてのお仕事も兼務され、静岡県に新しく病理医会を設立し病理医としての研鑽を積まれました。

多くの先生方と同様に私自身も大学卒業後に毒性病理分野で榎本先生に師事する機会を幸運にも得る事が出来ました。毒性病理学のイロハからご教授頂きましたが、決して叱責することなく、教育者として品性があり穏やかな優しい口調でご指導いただきました。皆からの信望があり、絵に描いたような理想の上司でした。仕事だけでなく学会活動についても大きなお力添えを頂きました。学会活動の重要性を常に唱え、若手毒性病理学者を積極的に学会に参加させ、さらに発表演題のヒントを日々の鏡検業務から適確に与えてくださいました。特に遺伝子工学手法を導入した発癌性評価の重要性に早くから注目しておられました。

榎本先生は、みんなで飲む楽しいお酒が大好きでした。お越しになられた日の仕事終わりには、必ず「飲みに行かないか？」のお声がけがあり、皆でお気に入りの飲み屋に行きました。夏にはビアーガーデン、冬には度数の高いお酒をチェイサーと一緒によくお飲みになっておられました。飲み会が盛況な時を見計らい、お手洗いに行くふりをして、こっそり会計清算をされるのが常で、皆からの会費を受け取ってもらうのに閉口したものでした。お正月には、静岡にあるご自宅に 20 名～30 名もの職員と家族をお招きいただき、家族との親睦も深めていただきました。また、発癌性と喫煙は関係しないというのが持論で、長年の愛煙家でもありました。

最後になりますが、毒性病理学の恩師として多くのご指導や学会の発展に寄与していただいた榎本先生に深く御礼申し上げますとともに，ご冥福を心からお祈りいたします。

2024 年 5 月　名誉会員　岩田　聖